

〔翻 訳〕

『スペクテイター』（4）

——第26号から第35号——

門 田 俊 夫

第26号 1711年3月30日（金曜日）

【アディソン】

豊饒な友である公明正大な運命の女神は同じ足取りで、
家の、そして宮殿の門をノックする。
寿命は煩わしさを引き延ばさせ、年齢以上に
希望を繋ぐことを禁じる。
やがて、死の闇が訪れ、あなたは名高い亡霊の仲間入りをし、
下界の黄泉の国の家に入らなくてはならない。（ホラティウス）¹⁾

私は敬虔な気持になるとよくウェストミンスター寺院²⁾を散歩します。この寺院に入ると往々にして、その場の醸し出す陰気な雰囲気、その用途、また建物の荘厳さとそこに眠る人々の状況とがあいまって、心は一種の憂鬱というかむしろ心地よい物思いに沈んだ気持ちに包まれます。昨日、私は午後はずっと教会の境内、回廊、会堂で、死者の眠っている区画で目にした墓石や墓碑を見て過ごしました。墓石や墓碑の大半は埋葬されている人物の誕生日と命日以外には何も記されていませんでした。つまり、埋葬されている人物の全史は万人に共通のこの二つの事実の中に包摂されているわけです。私はそれが真鍮であれ大理石であれ、こういった生存の記録は死者に対する一種の諷刺と見なさざるを得ませんでした。彼らは生まれて死亡したという事実以外には何一つ残さなかったのです。それを見ていて、私は英雄詩の中で語られている人物を数名思い出しました。彼らはほかでもない戦死したとい

1) 『頌詩』1.4.13-17.

2) ポストマン紙の1711年2月1日号にウェストミンスター寺院についての記事が掲載された経緯がある。

う理由から、堂々たる名前を付けられており、単に頭に一撃を受けたことで褒め称えられているのです。

グラウコス、メドーン、テルシロコス。(ウェルギリウス)³⁾

こういった人物の生涯は直ちに塞がれ滅ぼされる「矢の道」によって聖書⁴⁾に詳細に記述されています。

私は会堂に入っていくとき、墓を掘っているところに出会いました。そして掘り出されるシャベル一杯の土の中に、ある種新たに朽ち果てて大地と混ざり合った、かつては人間の身体を組み立てていた骨ないし頭蓋骨の欠片を目にしました。このとき、私はこの古くからある大聖堂の舗道の下には一体どれほどの数の人が混在した状態で横たわっているのだろうかと考えはじめました。どれだけの男と女、敵と味方、聖戦者と兵士、修道士と聖堂名誉参事会員がお互いボロボロに崩れ、同じ塊となって混ざり合っているのか。美、力、若さは、どのようにして醜さ、弱さ、老齢と一緒に同じごたまぜの物質の山の中で他との区別もなく横たわっているのか。

ひとつの塊の形だったのですが、このように壮大な死の宝庫を見渡して、私は昔からあるこの建物のいたるところに横たわっている墓石のいくつかで見つけた説明をもとに、その宝庫についてさらに詳しく考察しました。墓石の中には、もし死者にそれを知ることが可能であれば、友人たちから与えられた称賛の言葉に赤面すると思われるそんな飾り立てた碑文が刻まれているものがありました。また中には、必要以上に慎ましいものもあり、ギリシャ語あるいはヘブライ語で故人の人物を伝えており、一年に一度しか理解されないのです。詩人のコーナーでは一切碑文のない詩人もいましたし、また該当者がいなく記念碑だけのものもありました。実のところ、先の戦争つまりブレニムの戦い⁵⁾がこの教会を数多くの無人の記念碑で満たしたのだということが分かりました。こういった記念碑はおそらくは遺体がブレニムの野原か大海原の真っ只中に埋まっている人々を記念して建立されたのでしょう。

私は現代の碑文をいくつか見て、とても楽しい気分にならざるを得ませんでした。そういった碑文は非常に優雅な表現と公正な考えに基づいて書かれており、それは

3) 『アイネーイス』6.483.

4) 『ソロモンの智恵』5.12.

5) スペイン継承戦争(1701-13)において、ドイツ、パバリアのブレニムでの戦いでは、マールバラ公が率いる英・オーストリア連合軍がフランス・バイエルン連合軍を破った。トレヴェリアンの推定によると、英軍は672名の戦死者を出したということである。

死者だけでなく生者の誉れとなるのです。外国人は往々にして公の記念碑および碑文の言い回しから、その国民が無知であるかそれとも礼節をわきまえているかを判断しますので、記念碑などはそれを完成する前に、学識および才能のある人に見てもらうべきなのです。クラウドリ・シャベル卿の記念碑⁶⁾には、私は再々非常に気分を悪くしてきました。ここには、この飾り気がなく勇敢な人物の際立った性格である勇猛果敢なイギリスの提督の代りに、もったいぶった天蓋の下で、長髪の髪を付けベルベットのクッションに横たわっている伊達男がいるに過ぎないのです。碑文もその記念碑といい勝負です。というのは、その碑文には彼が国のために尽くした多くの顕著な活動が褒め称えられていなく、あるのは彼が榮譽を獲得できなかった死の様子だけなのです。私たちが才能が欠落しているといって軽蔑しがちなオランダ人は、建物およびこの種の作品に我が国よりも非常に優れた古雅と洗練さの趣きを示します。公費で建立されている彼の国の提督たちの記念碑は、提督その人を描き、海草、貝殻、珊瑚といった美しい花綱のついた船嘴装飾と冠と海軍の装飾品で飾られるのです。

ところで、主題に戻ります。我がイギリスの代々の国王の埋葬所につきましては、私の気持が真剣にその気になったと思われる日の観想のために取っておきました。この種の気晴らしは、おどおどした気持と陰鬱な想像力に、暗く陰惨な考えを想起させる傾向があるということは私には分かっています。だが、私はどうかといえますと、私は常に真面目なのですが、憂鬱になるということがどんなことだか分かりません。それゆえ、私は深遠で厳肅な場面の自然を非常に陽気で楽しい場面の自然を見るのと同じ楽しみでもって見ることができます。このことによって、私は他の人たちが恐怖心で見るもので自己を向上させることができます。偉人のお墓を見るときには、私の心の中からあらゆる妬みの感情が消えます。美人の碑文を読むときには、無節制な欲望はことごとく消え失せます。お墓で両親の悲嘆と出会うときには、心は同情で満たされます。また両親のお墓を見るときには、私たちがすぐに後を追わなければならない人たちのことを深く悲しむその空しさについて考えます。代々の国王が退位させた国王の傍らに横たわっているのを見るときには、並んで配置されている好敵手の才人あるいは抗争と論争で世の中を二分した聖職者について

6) シャヴェル卿の乗った船は、1707年10月22日、トゥーロンから航海中、シシリーの沖合いで難破した。ここで述べている記念碑はウェストミンスター寺院の南側廊にある。

思いを馳せるときには、私は悲しみと驚きでもって些細な競争、派閥、人の争いについて思案します。中には、昨日亡くなった者、また六百年前に亡くなった者など、墓石の日付をいくつか目にするときには、私たち全員が同時代人であり、一緒に出頭する最後の審判日のことを私は考えるのです⁷⁾。

第27号 1711年3月31日（土曜日）

【スティール】

愛しい人の去った恋する人にとっての夜の如く、
労働者にとっての昼間の如く、愚図つく一年の如く、
切望する後継者にとって、嫉妬深い母親たちが抑制するとき、
非常に単調で恩知らずな時は流れ、
私の希望と願いを妨げる。
行ったことは、富める人貧しき人のためになり、
ずっと耐えて来たことは、老若を問わず、
等しく害となるのだ。(ホラティウス)¹⁾

世の中には思索することを生業にしている人は少ない。だが、思慮深い人は密かに自分が味わう追い立てられ疲労困憊する日々のもどかしさの中で、自分の存在目的に相應しいそんな状況では、自分の考えをまとめる覚悟をしているものなのです。自分自身に課している名誉、権力、富といったものはすべて、それらを追求つまり獲得しようとしてこうむる不安の半分を償うに足るだけの満足感を与えてはくれないのだ、と人々が日々の会話で口にしているのを耳にします。とてもよくあることなのですが、人々がこういった気分になっているときには、彼らはどのような自己矛盾を犯しているのでしょうか。彼らは自分たちが抱えている労苦に耐えられなくなるのですが、心底ではそれを放棄することができないのです。隠退を願っているのですが、そうすることができないのです。人目に付かないところつまり隠れ場所を熱望しているのですが、それでも人生の最もきらびやかな舞台に登場したがる訳です。でもこれは、眠りにつこうとするときに、もっと明るくするようにと求めるのが理に適っていないのと同様に、道理に合っていないのは確かです。

7) 本紙はタイミングよく聖金曜日に発行された。

1) 『書簡詩』1.1.20-26.

そして、私たち自身の心が世の中を愛するという点において、私たちを裏切るといふこと、そしてまた、日々自らを世の中の誘惑から解放したいと願っているにもかかわらず、世の中を放棄するに十分自らを律することができないのも確かです。渦中にあるときには、形式ばった許可に固執しないで、自らを引き離すことが大切です。

できる限り素早くこの務めを成し遂げ、認められた生活をしようとするのは、大部分の人が一般的に考えることです。しかし、寿命は非常に不確かなことであり、また、生命そのものが存在して以来ずっと共通のテーマとなっていますので、理性の規則に従って生活を開始するときを引き延ばすことは不可能です。

実務家は絶えず何らかの問題を抱えます。そして問題にぶつかったときには、野心という空しい行為には別れを告げると自分に言い聞かせます。放蕩者はせめて許しを得て礼儀正しく愛人と別れる決心をします。だが、野心に満ちた人はいつなんどきでも新たな営みに関心を持ちます。そして恋する人は自分が諦められると思っている相手に新たな魅力を認めます。それゆえ、私たちが場所が変わるつまり環境が変われば行状が変わると自分自身に言い聞かせるのは気紛れな考え方なのです。どこにいても、抑え込まれるまで同じ情念が付きまとうものなのです。従って、私たちはある程度世の中の騒音と煩わしさに包まれて生きることができなければ、完全に引きこもって満ち足りた生活をすることはできません。私はこれまで、ある人のことをよりよく理解するにはその人の個人的な手紙を読むことが一番の近道だと考えてきました。先日、友人の聖職者と愚図愚図引き延ばすことについて真面目な話をしているときに、友人は、育ちもよく良識があり、友愛に満ちた親密な暮らしをしている人物の次のような手紙を見せてくれました。最初の手紙は友人が改宗させたある実務家の手紙であり、二通目は友人が十分な希望を抱いている人からのものであり、三通目はどう見ても堂々としているとは言えませんが、時折思い出したようにあれこれ知らせてくるある人物からのものです。

拝啓

私が日々資産家に利する何らかのことを行っているその償いに、貴方が与えて下さる高邁な恩義に対しまして、私は私の気持ちをどのような言葉でお伝えすればいいのか分かりません。私の持ち場には日々この種の機会が与えられています。関わりのあるすべての人に慈善の気持を持って接するようにとの貴方の気高い教えは、私が着手しますすべてのことに対して私の心を奮い立たせてくれます。当然の報いを

不面目な状態から救い出しますとき、よるべのない人に手を貸しますとき、隠された価値を生み出しますとき、徳高くなろうとして世の中を見捨てるもくろみであったことに対しまして、私は自分自身に対して不機嫌になります。私の立場が提供できます貴方の財産を増やす機会を、貴方が断わられますのを私は残念に思っています。でも、貴方の影響力と威信のお蔭をもちまして、私が善良な人物になっていますことを自認しますとき、私は貴方の満足感に一層の貢献をしているのではないかと考えている次第なのです。

敬具

R.O.

拝啓

先般、貴方と二人きりのとき、貴方がお話下さった真実につきまして、私はすっかり心服致しております。あのとき、貴方は私が陥っています愚かな所業についてお話下さいました。貴方が私のことを愛して下さいているのでそうおっしゃったのだと思います。そうでなければ、現在私が行っていますことをどう思っているか嘘偽りなく話をするようにとの貴方のお言いつけには、私は従うことはできなかったでしょう。私の人格の大半を託しています人につきましては、貴方のおっしゃる通りだと思います。でも、私のような取るに足らない人物は彼女にとっても正直で無邪気なものを感じますので、彼女の天真爛漫さをほかのものと比べてみますと、彼女のある種の罪は消えるのです。貴方のような高潔な方は罪の原因が変質していますことをお認めにならないのでしょうか。親愛なるクロエは、貴方のような敬虔な人から見れば、無情な名前を付けられるしかないのでしょうか。私は貴方のご親切な忠告に従いまして、私の精神状態につきまして手紙をしたためますときは、貴方と交わしました厳粛な約束を守ります。そして、この溺愛をうまく乗り切るよう努力します。彼女を溺愛することで、私は彼女のこのうえなく卑しい召使となっていますため、私は貴方にご相談に乗って戴くのをお恥ずかしくさえ思っているのです。

T.D.

拝啓

自らの理性の命じるままに生きていない人の生活状態ほど気掛かりなことはありません。私の隠退を愛する気持がまず第一に私を出廷させることになったとお伝えしますと、貴方には奇妙に思えることでしょう。でもこれは貴方に私が田舎に素敵

な隠棲の場所を購入できるだけの大金を手に入れる計画を持っていたとお知らせしますと、それは不可解なことではないでしょう。現在、私の境遇は余生を当初私が企てていました隠棲場所での生活を可能にしてくれます。また、私の義務感もそれを促してくれます。しかし、とても不幸なことに、私はそのことに全く興味を無くし、今では最初に出廷しましたときと違って、不承不承田舎に引きこもらなくてはならないのです。私が好んでいふことが取るに足らないことであること、また、私が無視していますことが最も重要なことであることを知ることは、私にとりまして非常に不幸なことです。要するに、私の心の中では、理性と流行の葛藤があるのです。かつて貴方が私に私が世の中に巻き込まれた生活と世の中を超越した生活を同時にするかも知れないとおっしゃったことがあるのを覚えています。もし可能でしたら、私の生活を私の義務および私の性癖に適合させるために、どうかこの辻褃の合わない言説につきましてご教示戴けないものでしょうか。

敬具

R.B.

第28号 1711年4月2日（月曜日）

【アディソン】

アポローンはいつも弓を引くわけではない。（ホラティウス）¹⁾

本日の紙面では、読者の皆さんに町の装飾および街頭から粗野なものを追放することに大いに貢献すると思われます新しい役目に関するある企画家からの手紙を紹介します。これは企画家²⁾全般に対する諷刺であり、また、現代批評に関する真に迫った心象だと私は考えます。

拝啓

貴方ご自身が精力を傾注できないいくつかの取るに足らない無法を点検する代理人を置く考えをお持ちだと知り、また、同種の好奇心に満ちた我が国の人々だけでなく外国人にも物議を醸すことに、日々の馬鹿げた行為がこの町の看板に掲げられ

1) 『頌詩』2.10.19-20.

2) Projector という単語は、文字通りは、企画を立てたり、事業の立案を立てたりする人物のことだが、当時は通常差別的な含意があり、策士、陰謀家、山師といった意味で用いられた。

ているのだと知り、貴方が小生をこの件で活用されているあるいは今後活用される人物に、つまり、小生をこの件に関する監督官に任命して戴きたいものをお願いする次第なのです。小生は全力を尽くして、規律に反しているあるいは欠陥があると考えますことはすべて矯正ないし絶滅させます。その種の代理人の不足に代るものとしては、至る所でしゃしゃり出て目立とうとしているそんなものに嫌悪感を覚える学識と良識に勝るものはありません。我が町の街路には、「青い豚」、「黒い白鳥」、「赤いライオン」などが満ち溢れています。「空を飛ぶ子豚」、「鎧兜を着けた雄豚」は言うまでもなく、アフリカの砂漠の動物よりももっと奇怪なその他の多くの生き物が闊歩しているのです。自然界のありとあらゆる鳥および獣の世界からも締め出されているものが「理性的存在」³⁾ という看板のもとで暮らしているとはなんと不思議なことでしょう。

それゆえ、小生に課されました最初の仕事は、ヘラクレスの仕事のように、町から「怪獣」を一掃することでしょう。つぎに、小生は、例えば、「鈴と牛の舌」、「犬と鉄灸」といった調和を欠き不釣り合いな自然界の生き物を同じ看板で一緒にくくることを禁止します。「狐とガチョウ」は適合するかも知れませんが、「狐と七つ星」はどう考えても合致しません。そして、「子羊とイルカ」は標識以外いつ顔を会わせたことがあるのでしょうか。「猫とヴァイオリン」には奇想が伺えます。従って、これは対象外としたいと思います。しかしながら、こういった問題に関しましては、若い商人が初めて自分で店を持つ場合には、店の看板に自分が仕えた親方の店の看板の標識を付け加えるのが通例なのだとことを言うておかななくてはなりません。これはちょうど男性が結婚後、自分の紋章に奥方の紋章を付け加えるようなものなのです。このことが私たちの頭越しに犯されている多くの愚行を生んでいる原因だと小生は考えます。私たちが頻繁に見掛ける「三人の尼僧と野兎」が引き金となって、小生はこんなことを考えるようになったのです。それゆえ、小生は商人がどの程度他人の標識を付けることができるのか、そして、どういった場合に自分の標識で四等分にできるかを決める一定のルールを確立したいと考えます。

第三に、小生は扱う商品と何らかの親近感のある看板を掲げている店を利用することにします。「天使」の標識に「女衞」、「ライオン」に「仕立て屋」ほど不釣り合いなものはないでしょう。「調理師」は「長靴」と一緒にすべきではありませんし、「靴屋」と「丸焼きの豚」も駄目です。だが、こういった規制がないために、「山羊」

3) 想像上、架空の存在ほどの意。

が「香料商」の戸口に置かれたり、「フランス王の頭部」が「刃物商」にあるのを見掛けたことがあります。

家柄を誇り、職人を監督する紳士たちの中には、自分の紋章に先祖の商売道具を付けている人たちがいるとある聡明な外国人は観察しています。小生は実際にその事実関係は調べていません。子孫がそのように先祖の標識を組み入れることは必要ではないかも知れませんが、実際にその職業にたずさわる人々が戸口にその標を表示することは大いに適切なことだと小生は考えています。

独創的な看板に名前が欠かせないときには、その機会を捉えて自分が何者であるかを世間に知らせよう助言します。独創的なサーモン夫人が「鮭」の看板のもとで暮らして来たのは滑稽だったことでしょう⁴⁾。彼女は家の前に彼女の名に因んだ魚の像を建てたのです。ベル氏も同様に同種の図案で有名になっています⁵⁾。ここで、小生はこの特別な鈴の形状はこの種の機知に好機を提供しているのだとお知らせしない訳にはいきません。貴紙の読者は、ベン・ジョンソンの時代にエイベル・ドラッガー⁶⁾がそのことで大変な称賛を博したのはご存知であるに違いありません。聖書外典の異教の神もまたこの姿で描かれています。これは竜と共に、我が街路のいくつかの場所でもとても見事な絵となっています。野蛮人が鈴の傍らに立っている看板の「ベル・サヴェッジ」に関しては、小生は以前その発想にとっても当惑したことがあります。ところが偶然、小生はフランスの昔のロマンスを翻訳で読んだのです。そのロマンスに荒野で発見されるとも美しい女性に関する叙述があり、彼女はフランス語で「未開の美女(ラ・ベル・ソヴァージュ)」と呼ばれているのです⁷⁾。そこで、我が国の人たちによって、至る所で「ベル・サヴェッジ」と翻訳されている訳です。この種の言語学的な知識によって、小生が看板を研究対象にしているのであり、従って、小生は貴方のもとでこの任に就く資格があるのだと納得戴けるものと期待します。手紙を終えるにあたりまして、今お伝えしていますテーマに関して、もう一言付け加えさせて戴きます。小生は戸口に掲げられています看板でその住人の気質を見抜くことができるのです。穏やかな気質の人はしばしば子羊を選

4) フリート街テンプル・バー近くにあった「サーモン夫人蠟人形館」は当時人気を博した呼び物のひとつだった。

5) ウッドストリートのシルバーストリート・コーナーに「ベル・エールハウス」という居酒屋があった(ポストボーイ紙1710年6月29日)。

6) 『錬金術師』(1610)に登場するタバコ屋の名。

7) ラドゲイト・ヒルにあったこのインの名前には多くの由来があった。

びますが、無愛想で癩癩持ちの人は一般的に熊を選ぶのです。チャリングクロス界限で、看板に大きな鉢と二人の天使が舞い、レモンを搾っている図案という非常に入念な装飾が施されているを見掛けて、小生はとても好奇心をそそられその家の主人に尋ねてみました。すると、その看板のささやかな符合から小生が推察していたとおり、彼がフランス人であることが判明しました。小生はこういった心得を優れた能力の持ち主にまで及ぼす必要がないことは承知しています。そういう訳ですので、何卒小生をお引き立ていただきますようお願い申し上げます。

敬具

もう一通1ペニー郵便で送られて来ました次の手紙を付しておきます。

チャリングクロス近くの拙宅より

拝啓

我が国民は独創性を大層奨励すると聞きましたので、小生はムガール帝国の僻地で見つけた綱渡り芸人を連れてかえって来ました⁸⁾。彼は生まれながらの猿ですが、ロープの上を走り、理性ある人間と同じようにタバコを吸い酒を飲みます。彼は教養ある人々に大きな満足感を与えます。そこで、もし彼が人々に受け入れられますなら、オランダにいる彼の弟分のトンボ返りの芸人と、小生が香具師の手下と考えています同じ一族の者をもう一人呼びにやります。彼は物真似が非常に得意で、現在その国で最高の道化者なのです。小生はこの見世物を今度の冬には間に合わせたいと考えている次第です。これはオペラや人形芝居よりもはるかに満足のゆくものであることは間違いありません。猿の方がオペラの主人公たちより優れていると言っているわけではありませんが、あまりにも人工的な森や針金細工よりも彼の方が人

-
- 8) 綱渡りの芸人や「ヨーロッパ」の曲芸師は、バーソロミューの市などの小屋で人気を博した。1706年5月1日のデイリー・クーラント紙に載ったつぎの広告には、ここで諷刺されている驚きを紹介している。「ウィドウ・バーンズでは、メイフェアの期間中、ベンケスマン氏の小屋の真向かいにあるエヴァンズ氏およびフィンリー氏の小屋で、いまだお目にかかったことのない不思議で驚嘆すべきかつ筆舌に尽くし難い芸を披露する最も著名なヨーロッパの綱渡り芸人を見ることができます。」

1702年創刊で1735年まで続いたデイリー・クーラント紙は、外国新聞の記事を英訳して掲載したイギリス最初の日刊紙。

間をうまく表現するのは確かです。小生にとって良い知らせを貴紙に掲載して下さい、小生の催しには貴方を毎晩無料でご招待させて戴きます。

敬具

第29号 1711年4月3日(火曜日)

【アディソン】

双方の言語がうまく融合している文体は、
 ちょうどファレルノワインとキオスワインを
 混ぜ合わせたときのように、魅力が一層増す。(ホラティウス)¹⁾

イタリアのレチタティーヴォ(叙唱)が舞台上に初めて登場したときほど、我が国の観客をはっとさせたものはありません。将軍が歌で号令をだし、婦人が言付けを楽曲に合わせて伝えるのを聞いて、人々は大変驚きました。我が国の人々は、恋人が恋文を、さらには手紙の上書きまでも曲に合わせて朗々と詠唱するのを聞いて、笑いを抑えることができませんでした。『王様と二名のフィドル奏者登場』という昔の劇の有名な大失策はもはや失策でも何でもなかったことになりました。当時は、荒野にいる主人公あるいは私室にいる王妃は、楽器の伴奏がなければ何か口にすることができなかったのです。

しかし、このイタリアのレチタティーヴォでの上演方法は、最初耳にしたときにどのように思われようと、私はこの新機軸が出現するまで我が国のオペラに行き渡っていたやり方よりもはるかに至当だと考えざるを得ません。歌曲からレチタティーヴォ風の楽曲への移行の方が、パーセルのオペラで一般的だった歌から飾り気のない普通の語りへの移行よりも自然なのです²⁾。

私が現在の方法で気づいた唯一の欠点は、英語とイタリアのレチタティーヴォとの組み合わせです。この問題を探究するには、国によって日常会話の調子、つまり、

- 1) 『諷刺詩』1.10.23-24. ファレルノワインとはイタリア、カンパニア地方のワインであり、キオスワインとはギリシャ、キオス島産のワイン。ファレルノワインはローマ人に喜ばれ、ウェルギリウスやホラティウスがうたった。
- 2) 王政復古期のオペラはたいがい劇的な見世物と歌をちりばめていた。ヘンリー・パーセル(1659-95)は『あらし』や『インドの女王』といった戯曲数篇の添え物的な曲を作ったが、『ティードーとアイネイアース』以外は、「対話のあるオペラ」と言われた。

フランス語でいうアクセントが、イングランドと国境を接しているウェールズおよびスコットランドでも明らかなように、国によって全く異なるのだということを認めなくてはなりません。調子つまりアクセントというのは、それぞれの特定の単語の発音のことではなく、文全体の音調のことを私は言っているのです。従って、イギリスの紳士がフランスの悲劇を耳にすると、役者たち全員が同じ調子で喋っていると不平を言うのはよくあることです。それゆえ、イギリスの紳士は外国人がイギリスの役者の同じ調子に不平を言うとは思わずに、非常に賢明にも同国人に優先権を与えているのです。

そういう次第ですから、あらゆる言語におけるレチタティーヴォ風の楽曲はそれぞれの言語の調子つまりアクセントと同様に別個のものであるべきなのです。そうでなければ、ひとつの言語で感情がうまく表現できることでも他の言語ではそうはいかないでしょう。イタリアに長くいたことのある人なら誰でも、レチタティーヴォの抑揚は日常会話の声の調子と類似点がほとんどない、つまり、もっと正確に言えば、ただイタリア語のアクセントが音楽的で調子がいいのだということをよく知っています。

このように、言うなればイタリアの音楽でのそういった場合の話のアクセントと似ている質問や称賛の語気は、イギリス人が怒ったときの普通の調子と似ていない訳ではないのです。私はよく見かけるのですが、我が国の観客はしばしば舞台上で起っていることを誤解して、主人公が使者に質問するとき、彼を打ち倒すのではないか、また、ただ挨拶をしているだけなのに友人と喧嘩をしているのではないかと思うほどなのです。

このため、パーセルの作曲を評価し、彼の曲は非常によく合うと考えているイギリスの音楽家とイタリアの芸術家とは意見が合いません。なぜなら、両国民は必ずしもいつも同じ音で同じ感情を表現するとは限らないからです。

それゆえ、私は僭越ながら、イギリスの作曲家はイタリアのレチタティーヴォをあまりにも卑屈に手本とすべきではなく、自国語に応じて、そこから派生した色々なものを利用すべきである、という意見を持っています。イギリスの作曲家はそこから心を鎮める柔らかさやシェイクスピアのいう「消え入るような調べ」³⁾を真似る

3) If music be the food of love, play on, / Give me excess of it; that, surfeiting, / The appetite may sicken, and so die... / That strain again! it had a dying fall: (『十二夜』 1幕1場1—4行)

ことができるかも知れませんが、やはり自らをイギリスの観客に適應させるべきなのだというのを忘れてはならないのです。そして、模倣しようとしているイタリアの国の人々のように、日常会話の声の調子に合わせることによって、英語のアクセントも同じように考慮すべきなのです。我が国の歌手たちの何人かは、温暖な気候の国からやって来た人々のもとで練習を積むことで、声の響きをよくし自然な語気を持つ耳障りな音を柔らかくできるようになっていると見受けられます。同様に、私はイタリアのオペラに光彩を付与し穏やかするためにイギリスの音楽を貸し出すでしょう。だが、そのことによって、完全に制圧され、その国独自のものが台無しになるようでは駄目なのです。注入は非常に大胆でいいのですが、内容はイギリス的なものにすべきなのです。

作曲家は彼の音楽がその国の人々の特質に適合し、聴覚の敏感さおよび調和への嗜好がそれぞれの国が持っている音調に基づいて形成されているか考慮すべきです。要するに、音楽は相対的なものであり、ある耳には調和のとれているものであっても別の耳には耳障りなものになることがあるということです。

私が音楽のレチタティーヴォ部門について述べて来ました同じ考えは、歌および歌曲全般にも当てはめることができるかも知れません。

パプティスト・リュリ氏⁴⁾は、この点に関しては分別を持って振舞いました。彼はフランスの音楽は非常に欠陥があり、多くの場合、粗野であると考えました。しかしながら、フランス人の気質、フランス語の特質、そして彼が相手にしなければならぬ偏見を持った聴衆のことが分かっていたので、彼はイタリアの音楽を持ち込んでフランスの音楽を根絶するようなことはしませんでした。そうはしないで、彼はただイタリアの音楽から借用した数え切れないほどの装飾音と転調を使って、フランスの音楽を啓発し洗練しようと努めたのです。このお蔭で、フランスの音楽の質は今では申し分のないものとなっています。そこで、フランスの音楽がイタリアの音楽ほど優れていないと言うときには、それは単にさほど気に入らないということなのです。なぜなら、イタリアの音楽が非常に好きだということを聞いて驚かないフランス人は皆無だからなのです。フランスの音楽は、実際、フランスのオペラ全体が陽気で快活な人々の特質を非常に大切にしているように、フランス語の

4) ジャン・パプティスト・リュリ (1632-87) はフランス宮廷のオペラ監督となり、14作ほど作曲した。その作品のひとつ『プロセルピナ強奪』は1680年2月3日、サン・ジェルマンで、ついで、11月19日パリで上演された。

発音とアクセントに実にうまく適合しています。オペラの合唱曲はオーケストラ・ボックスの背後の席の観客にしばしば舞台の合唱団に加わる機会を提供します。このように役者と一緒に歌おうとする観客の嗜好は、彼らフランス人にはとても行き渡っていますので、舞台上の役者が有名な歌でうまくやれないのは、賛美歌を歌う教区牧師の声が会衆の歌声によってかき消されるのと同じだということを、私は時折体験したことがあります⁵⁾。舞台に登場する役者は全員伊達男です。女王や女主人公たちは大変な化粧をしていますので、乳絞り女と同じく赤くサクランボ色の頬をしているように見えます。羊飼いたちは刺繍で飾り立てられており、舞踏会では我が国のダンスの先生よりうまく踊ります。二人の騎手が赤いストッキングを履いて登場するのを見たことがあります。アルペイオスは頭をカヤツリグサとガマで覆う代りに、金髪の長い鬘と羽飾り姿で恋をします。声は大変な震え声でしたので、私には田舎の小川のせせらぎの方がはるかに心地よい音楽と思えるほどでした⁶⁾。

私があの陽気な国で観た最後のオペラは『プロセルピナ強奪』でした。このオペラでは、プルートンはより魅力的な人物になるために、フランスの立派な馬車に身を置き、従者としてアスカラファスを引き連れています。これは私たちの言う愚行と不適切な行為に相当します。だが、フランス人はそれを陽気で優雅なものとしているのです。

音楽、建築、絵画は、雄弁術と同様、その原則と規則は芸術そのものの原理からではなく、人間の普遍的な感覚と嗜好から導き出されるのだということ、換言すれば、嗜好は芸術に従うのではなく、芸術が嗜好に従うのだということ以外には私はこれ以上何も付け加えません。音楽は単に彩色を施された耳を喜ばすために作られるのではなく、耳障りな調べと不調和な調べを区別できるすべての耳を喜ばすために作られるのです。普通の耳の持ち主なら、ある感情が相応しい音で表現されているか、その音の旋律が概ね心地よいものであるかどうか判断できるのです。

5) アディソンは1690年8月、パリからCongrèwに出した手紙でこのオペラについて書き記している。

6) アルペイオスとアレトゥーサについては、オヴィディウスの『変身物語』5の572-641を参照。

第30号 1711年4月4日(水曜日)

【スティール】

もし、ミムネルムスが考えるように、愛と歓喜がなければ
何ひとつ愉快でないのなら、愛と歓喜に包まれて生きなさい。

(ホラティウス)¹⁾

個々の事情は異なるのですが、ひとつのありふれた不幸が人々に大きな影響を与えます。愛という情念は人間にとって最も普遍的な関心事です。前回のオックスフォードからの助言によって、オックスフォード大学には、この傷つき易い情念に敬意を表する社交界に身を投じている嘆き悲しむ人たちの集団があるということを知って私は嬉しく思っています。この紳士諸君はあまり常識には埋没しないものの、自分たちの犯している愚行は分かっている、そんなタイプの恋をする人たちです。そのため、彼らは他の仲間から遊離しています。なぜなら、その方が仲間内以外の人に馬鹿にされずに、取り止めもなく喋る楽しみが持てるからです。クラブにやっても話の前置きはする必要がなく、椅子に腰掛けるとすぐに、自分自身の思考にそって「彼女は私にとっても親切な視線を投げ掛けてくれた。これまで今晚ほど上機嫌な顔付きをしたことはなかった」とか、その他思いのたけを、仲間の誰のことも考慮しないで語るのです。というのは、この集まりでは、お互いに喋るために顔を合せるのではなく、各人が勝手気ままに独り言を言うのです。彼らは、若い仲間との話では必需品である嗅ぎ煙草入れやステッキの代りに、それぞれ飾りひもの端とか壊れた扇とか古い帯とかを持っています。そんなものをもってあそびながら、女性の話をし、それでその女性のことを思い出しているのです。手紙に書かれていることから察しますに、この一団はまるで役者たちが舞台裏で下稽古をしているように見えます。ある人はため息をつきながら懇願するような言葉づかいで自らの運命を嘆き悲しんでおり、またある人は関係を絶つと息巻いており、また別の人は無言劇の形で、身振りで自らの感情を表現しようとしているのです。そういった集まりでは、突如としてある人が立ちあがり、広く自らの感情を吐露し、全員をその話に巻き込み、真意を分かってもらおうとするのはきわめてよくあることです。この場合、もし誰かが他の人たちよりも哀愁に満ちた言い方で自分の燃える想いの凄まじさを

1) 『書簡詩』1.6.65-66.

示すと、誰よりも勝った情熱に対する敬意から、その人がその夜の座長を務めることになる。

数年前、ロンドンに、恋人たちのように出会い、着飾り、「房飾り付き手袋クラブ」という名で目立った人たちの集団がありました²⁾。だが、彼らは情熱によって傷つけられる以前でも、非常に穏やかな知性の持ち主でしたので、彼らの変則的な行為は日々新たな不適切な行為を生み出すに十分なだけの愚行をもたらすことにはなりません。そのために、このクラブは途絶えてしまいました。彼らは服装でしか彼らの感情を表現できなかったのです。だが、オックスフォード大学の人々はそれまでの彼らの学問や理解力を考えて見ると、彼らが今恋する人になっていることは異様なことなのです。快い逆上についての古代の詩人の考えは、今日のある美人に敬意を表する形で解釈されます。そこで、クローリスは今日、一千年前にレスビアに捧げられたのと同じ賛辞でもって口説かれることになります³⁾。ところで、私の知る限りでは、このクラブの後援者はかの名高いドンキホーテなのです⁴⁾。この温和な騎士の冒険は、その情熱と自分自身のことを笑い飛ばすということからしばしばクラブの話題に上ります。しかし同時に、彼らはその不幸な騎士の放縦には感じ易いのですが、最も優れてかつ賢明な著作の読書を愛の叙事詩に変えることが、ドンキホーテの逆上に劣らず、道を踏み外した逆上であることに、彼らは気づいていません。今後も引き続き手紙を送って下さるものと期待していますが、ある紳士が最近そのクラブへの入会が認められ、次のような手紙を送って下さいました。

拝啓

貴方がクラブのことに着目なさっていると知りませんでしたので、貴方がいずれの場所でも触れておられず、おそらくは、今までお聞きになっていらっしやらないオックスフォードのあるクラブについてご報告致したいと存じます。私たちは「好色クラブ」⁵⁾ という名称を掲げ、全員がキューピッド信奉者であり女性崇拜者です。私たち

2) このクラブについては、第16号参照。

3) 『カトゥルスの冒険とレスビアとの恋物語と精選詩集』は、数名の手によってフランス語から英語に翻訳され、1707年出版された。カトゥルス (84?-54? B. C.) はローマの抒情詩人。

4) セルヴァンテス (1547-1616) は、タトラー紙178号で洞察力に優れた才能の持ち主と褒め称えられた。ダーフェイ (1653-1723) による『ドンキホーテ』の舞台版は3部作で1695-6にかけて上演された。

のことが世間ではほとんど知られていない理由は、私たちが大学内で秘密裏に生活することが義務づけられているからなのです。私たちの組織は私たちが生活している場所の組織に反するのです。なぜなら、愛には博士はいませんし、私たちは全員非常に激しい情熱を公言しますので、卒業生は認められていないのです。会長の地位は情熱の尊厳によって授けられます。会員数には制限がありません。会則はドルイド教の規則に似ています。規則は自身の胸の内にだけ刻まれ、大多数の会員がそれを遵守するのです。恋人を称える詩が会員候補者を紹介することになります。誰であれ詩がないと入会は認められません。なぜなら、詩が作れるほどに恋をしていない人は私たちのクラブへの入会資格がないからです。女性について失礼なことを言うと私たちの礼儀正しいクラブから除名されます。私たちは全員大学生ですので、恋敵になったときには決闘はしないで、一緒に恋人のために乾杯をします。乾杯のやり方で時折、実は言い争いになることがあります。そういった場合には、私たちは古代の人たちの愛の規則に助けを求めます。「ナエヴィアは六杯、ユスティーナは七杯飲んだ。」⁶⁾ 女性の名前の手紙一通ごとに一杯飲むというこの方法は、先日の夜、少し興奮気味の論争を引き起こしました。エリザベス・ディンプル夫人に恋している若い学生がエリザベスの名前で乾杯することでとても理屈に合わないことを口にしたのです。これは他の人たちをひどく苛立たせたので、全員の賛同を得て、その名前を短縮してベティーとすることにしました。私たちは十五分間で五回ため息をつかない人は仲間とはみなしませんし、質問に自分で直接応える会員はこの上ない愚か者とみなされます。要するに、この集まりは全員放心状態の人物、つまり、自身の存在感を見失っている人物であり、心と身体がバラバラの人物からなっているのです。私はこの気の狂ったクラブの痛ましい会員ですので、貴方は整然とした説明を期待することはできません。そういう訳ですから、私が突如お手紙を差し上げましたことは何卒ご容赦戴きたいものと存じます。

敬具

T. B.

当クラブに六人の信奉者がいるアルビーナは貴紙の読者でありますことを申し添えるのを失念致しておりました。

5) このクラブは女性たちの「砂糖菓子」クラブと比較される。(R. J. アレン『アン女王時代のロンドンのクラブ』167-8ページ)

6) マルティアリス (40?-104?) 『書簡詩』1.71.1. マルティアリスはローマの諷刺詩人。

第31号 1711年4月5日(木曜日)

【アディソン】

私たちが耳にしたことをお伝えしてもよろしいでしょうか。

(ウェルギリウス)¹⁾

昨夜、ヘイマーケット劇場の近くのコーヒーハウスに行きましたとき、私は半時間以上にわたってある人の話を盗み聞きして楽しみました。その人のむさ苦しい服装、途方もない考え、せわしい話し方から、私はその人が一般に企画家という肩書で識別されている種族の人だと分かりました。周りの人たちからそのように遇されているのが分かったのですが、この紳士はオペラの企画を話題にしてテーブルの人たちみんなを楽しませていました。彼が言うには、そのオペラの企画を思い付くには二、三日で決着が付き、採算のとれる見通しさえ立てば、上演の準備も整っているとのことでした。彼が言うには、ご婦人方がロンドンのあちこちで催されている見世物に出向くには大層難儀で不便なのだということでした。踊る猿、人形芝居、オペラがそれぞれ別の場所で催されているのです。ロンドンの洗練された場所で行われているライオンのことは言うまでもありません²⁾。このため、名士たちはロンドンにやって来て珍しい名所を見て回るだけで、否応なく冬の半分は奪われることになります。こういった大変な不便さを取り除こうとして、我が企画家はポケットから『アレキサンダー大王の長征』という題名のオペラの概要を取り出したのです³⁾。彼はその作品の場面や飾り付けにロンドンの注目すべき見世物をすべて取り込んでいました。この考えはもともと自分のものではなく、舞台上で観たいいくつかの上演からそのヒントを得たのだ、と彼は打ち明けました。そこには、「ピープショー」「はしご乗り」「ポーズを取る男」「動画」⁴⁾ などなど色々珍しい見世物が盛り込まれてい

1) 『アイネーイス』6.266.

2) 踊る猿、人形芝居、オペラ、ロンドン塔のライオンなどが、ロンドンでのご婦人方や名士たちの娯楽だった。

3) 1677年初演されたリーの『好敵手女王、またの名をアレキサンダー大王の死』はこの当時でも、ドゥルーリー・レイン劇場の上演作品となっており、1710年には3回上演された。1710年6月29日には、ヘイマーケット劇場で「喜劇的悲劇、好敵手女王」と戯画化されて上演された。アレキサンダーにシバー、正妻ロクサネにブロックが扮した。

ました。

この『アレキサンダー大王の長征』はアレキサンダーがデルポイの神託を聞いている場面で幕が上がります。その場面では、近年非常に多くの貴族から招きを受けている口のきけない魔術師がアレキサンダーの運命を告げる役として紹介されることになります⁵⁾。同時に、アレキサンダーの到着を喜んでデルポイの鐘を鳴らす役として、バーネットのクリンチが神殿の一角に登場します⁶⁾。ダレイオス王のテントには独創的なサーモン夫人が陣取ることになります⁷⁾。そして、アレキサンダーは美しいスタティーラに扮する蠟人形に恋をすることになります。アレキサンダーがこの国にやって来るとき、クルティウス⁸⁾が語るには、犬がこの上なく獐猛で、たとえ手足がバラバラに切断されても攻撃の手もゆるめず、口しか残っていなくても歯でしっかり獲物を捕らえて放さないのですが、ホックリー・イン・ザ・ホール⁹⁾の場面が登場します。そしてさらにその場面では、その他の様々な気晴らしが描写されます。ただし、「牛いじめ」だけは天井が低く劇場ではおそらく無理ですので除外されるでしょう。アレキサンダーが通過すると思われるアジア各地の森は、滑稽な様々な楽しみと共に、ロープの上で踊る猿を観客に提供することになります。同時に、鳥であれ獣であれ、ロンドンの珍しい動物にそのチャンスがあれば、森の中に放たれるか、アジアの国の人々に舞台上で駆り立てられることになります。最後の大きな戦いでは、ペンケスマン¹⁰⁾が象に乗ったポールス王に扮し、ヒトコブラクダに乗ったアレキサンダー大王に扮するパウエル¹¹⁾と対決することになります。パウエル

4) ババリア選帝侯のために考案された動画は、1709年初めに、フリート街のマー
ルバラ公頭亭で展示された。

5) ダンカン・キャンベルは当時人気のある予言者だった。デフォーは1720年に『ダ
ンカン・キャンベル氏の生涯』という書物を出版した。

6) 第24号参照。

7) 第28号参照。

8) 『アレキサンダー大王の生涯』9.1.31-33.

9) クラーケンウェル・グリーン近くにあるホックニー・イン・ザ・ホールのベア
ガーデンでは熊いじめやボクシングが行われ人気を博した。

10) ウィリアム・ペンケスマン(ピンケスマン)は当時最も人気のある役者兼興行
師だった。長年に渡って、メイフェア、パーソロミューフェアなどに小屋掛け
をしていた。同時に、ドゥルーリー・レイン劇場に定期的に出演していた。そ
して、1710年夏には、グリニッジに自分の劇場をオープンした。

11) ジョージ・パウエルはタトラー紙3号に「今はおとなしくしているが、以前ノ

氏はやはりヒトコブラクダのことをブーケファラースという名で呼びたがっています。この決戦の終わりに、つまり、両王が相互の友情と合意を得て完全な和解に達し、二人して人形芝居を観に出掛けます。パウエル・ジュニアは彼の持っているから繰り操作の技を発揮するチャンスを持つことになります。テーブルにいた誰かが、人形芝居はアレキサンダー大王には相応しい余興ではないのではないか、また、その征服者がピグミーが住んでいると言われているインドの地方に達したと想定するなら、その方がもっと自然に人形芝居を持ち込めるだろう、と主張しました。しかし、この異議は軽薄だと考えられ、即座に却下されました。さらに、我が企画家は、この両王が和解した後、彼らがお互いに晩餐に招待しあい、双方ともたまたま現在流行っているドイツ人の芸人¹²⁾、ペンケスマン氏の異教の神々などの気晴らしで客人をもてなすことになるだろう、と付け加えました。

この企画はその場にいた人たち全員から大きな拍手でもって迎え入れられました。そのとき、我が企画家は自分の構想はまだ半分も伝えていないといました。このアレキサンダーはギリシャ人なので、オペラ全篇をギリシャ語で上演するのが彼の意図でした。ギリシャ語はとりわけイオニア方言で少し声を張り上げ、唇を丸くして発音されたら、ご婦人方をこの上なく満足させるのだ、そしてイタリア語よりもギリシャ語が分かる人は少ないので、観客は全員満足せざるを得ないのだ、と彼は確信していました。解決がついていないただひとつ厄介な点はどのようにして役者を確保するかという点でした。大学の紳士諸君何名かに舞台上上がる資格を持ってもらうためには、歌を歌う勉強をしてもらうよう説得しなければならなかったのです。だが、この企画家がギリシャ人は現在トルコ帝国唯一の音楽家であり、スルミナのイギリス商館が毎年私たちのもとに、トルコ艦隊という機会を捉えて音楽家の移民団を送り込むのはきわめて容易なことだと語ったとき、この問題はすぐに解消しました。また、もしこのオペラに低音部のソロが必要なら、二週間あればロレンス¹³⁾がイタリア語と同じくらい上手にギリシャ語を喋れるようになる、と彼は言います。

この企画家は、このようにして聞いている人たち全員が十分気に入るように問題

「いろいろなところでアレキサンダー大王の役をやった名高い英雄的な役者」と紹介されている。この頃は、晩年に近づいていた。

- 12) 動画を操作する人物のことと思われるが、1698年12月8日のフライング・ポスト紙に広告が出たドイツの芸人のことを言っているのかもしれない。
- 13) イタリア・オペラのテナー歌手。

を解決して、テーブルから離れ、私が盗み聞きをするために陣取っていた暖炉の前に移動して来ました。私が普段よりも聞き耳を立てていることに彼が気づいていたかどうかは私には分かりませんが、彼は私の傍らに立って十五秒もしないうちに、突如、私に食って掛かり、コートのボタンを掴んで、唐突に次のように攻撃して来ました。「その上、私はスイスにいる音楽に対して並外れた才能の持ち主を知っているのです¹⁴⁾。彼は指の力が実に強く、オルガンの鍵盤をまるでドラムのように響かせることができますのです。私が毎冬ほぼ一万ポンド約束できれば、彼を招聘し、契約をしてイギリスの舞台で用いる歌はことごとく用意できると請け合いますよ。」この後、彼は私の返答を期待して、私の顔をまともに覗き込みました。この企画家が私に向かって来たとき、幸運なことに、コーヒーハウスに入って来ていたある紳士が、スイス人の作曲家について喋っているのを聞いて、少し笑みを浮かべながら「それでは我が国の音楽はスイスからさらに一層の改良点を受け入れることになるのですかね」と大きな声を出しました。この声は企画家を動揺させました。彼は直ちに私のコートのボタンから手を放し、その紳士の方を振り向きました。私のために行われたと思われるこの発言の機会を捉えて、私はカウンターに勘定を置いてあたふたとコーヒーハウスから立ち去りました。

第32号 1711年4月6日(金曜日)

【スティール】

彼には仮面も悲劇役者の履くブーツも必要ないだろう。(ホラティウス)¹⁾

「醜悪クラブ」の会則に関する先般の話はオックスフォードでは非常に好意的に受け止められましたので²⁾、彼らは私に関しまして、クラブには厳格な規則があるにもかかわらず、私自身の推薦状をそのまま受け入れ、私の入会を認めるほどでした。

14) スイス生まれのジョン・ジェイコブ・ハイデガーは、ヘイマーケット劇場のオペラ助監督にもなっており、もっぱら器量の悪さで有名になっていたように思われる。ポープ(1688-1744)も『銜学迂人列伝』の覚書の中で、彼のことを「スイス出身の奇人」と語っている。彼は1749年9月4日、90歳前後で死去した。
(ジェントルマンズ・マガジン19.429) ジェントルマンズ・マガジンは1731年創刊で1907年に廃刊された。

1) 『諷刺詩』1.5.64.

2) 第17号参照。

そこで、私は私に与えられましたこの榮譽を世間に公表したいという虚栄心を抑えることができませんでした。有り難いことに、前回の寄稿者同様、会長から考えと判断を示して戴くことができました。彼の長広舌には、語りの醜悪さを損ない、ご勘弁を戴きたいのですが、寄稿者にはあまりその才がない数多くの非常に適切なためらいや息継ぎがあったと危ぶまれることもありません。私はこのクラブが美について抱く軽蔑心を大いに是認します。人の意志に関わらないものには何ひとつ賞賛に値するものがあってはならないのです。それゆえ、私たちのクラブは自然に従い、いわば、自らをあざけるのが相応しいと考えられるところでは、私たちもまたそれにならない、その機会を愉快に思うことができるのです。

拝啓

私が前回お知らせしました心配事を貴方が公表なさったことが、次のような機会を生むことになったのです。先日の夜、コーヒーハウスの入口で私が誰に会ったと思われますか。ほかでもありません、親友の会長に会ったのです。私は彼が何らかのことで上機嫌であるのが分かりました。彼は私を見掛けるや否や、次のように言うのです。「ねえ君、ロンドンから実に素敵なニュースが届いていますよ。観察者殿が光栄にも我がクラブのことを取り上げ、ご自分の面相について推薦状をつけて会員になりたいとの偽らざる心境を世間に披露しているのです。そこで、我がクラブの会則には短い顔については特定の規定はないのですが、この人の場合は特別ですので、私としては入会してもらふ抜け道を見つけようと思うのですが、どうでしょう。会則には違反しないと保証します。もしこの人の顔の横幅が頬の長さと同じくらいなら、彼は変装する必要はないのです。」私は直ぐに新聞を取り寄せ、そこに載っている貴方の顔を確認しました。そして、しばしの間我が会員殿の愛すべき顔形を確認して二人して大いに満足しました。その結果、会長から今度の夜開かれるクラブの集いでは私が貴方をおもてなしするようにとおおせつかりました。その段取りが付き、パイプに火を付けると、会長は私の書簡に付けられました貴方の序文について熱弁を振るい始めました。会長の話し振りは理性の力だけでなく実に流暢なものでもありました。「この種の思索は久しく待ち望まれていたことだったのです。肉体と魂を調和させるときに、また、身体的に余剰、欠落、ふぞろいといった状態にある人の心を鎮め落ち着かせるときに、人々にとってこういった思索がこの上もなく貴重なことであることに彼は疑いを差し挟まなかったのです。このように考えることで、みんな自分の身体は希望通りにきちんと組み立てられていないけれど、

自分の身体に満足することになるのです。君が最初に述べた意見、つまり、私たちの顔は自分で選んだものではないという意見に対して十分な考慮を払わないために、人々はせっかくの行儀作法を忘れて、奇妙で致命的な放縦へと流れてしまうのです。これまでどれだけの公明正大な鏡が真実をありのままに映し出したがために非難され中傷されてきた、否、粉々にされてきたことでしょう。ひとえに人々が自分自身の影に難癖を付けるために、どれだけ沢山の帽子の紐や靴下留めが共犯者にされ、実際に処分されてきたことでしょう。人生に不安と惨めさを引き起こす大きな原因が、いかんともし難い私たちの外面的な事情、つまり、肥満だとか痩せぎすといった生来の克服し難い資質のことをあまりにも深刻に考え過ぎることにあるのだということが分かっている人が、とりわけ、著名な人たちの中にどれだけいるだろうか、と彼は続けるのです。観察者殿の見方を少し取り入れれば、こういったことは払拭できるでしょう。そのうち、彼らにもこんなことは苦悩のもとでないことが分かるでしょう。だが、おそらく時代によっては、こういった肥満だとか痩せているといったことが大いにもてはやされたことでしょうし、現在がそうなのかも知れません。否、国によっては、きっと、現在もてはやされているのです。「豊満」夫人は単に自身の体格のせいで世の中で最も惨めな女性となる訳です。彼女は肥えるのを恐れているために、肉や飲み物に悪意さえ抱いています。そして、彼女は絶えず3ヶ月したら痩せてみせるわ、とわめいているのです。この夫人の不幸はひとえに彼女が居場所を間違えているからだと思われます。なぜなら、海を渡って別の国に行けば、18ストーン(114.3 kg)以下の体について口にするのはハーレムでの物笑いの種となります。かの地の思慮分別のある商人たちは、美人の尺度として、バターを測るのと同様に、重さを適用します。「十字架」嬢が、始めて低地国にやって来たとき、美しさはマダム・ヴァン・ブリスケットに比べて50タン(約477リットル)ほど劣っていると見積もられました。一方、非の打ちどころのない生活を送り、年収1500ポンドある立派な紳士の郷土「痩せぎす」氏がいます。だが、私なら彼の地所を半分貰っても郷土にはならないでしょう。なぜなら、地所がもっとあったとしても、彼の考えでは脚二本と引き換えに、地所をすべて惜しげもなく手放したいと考えているからです。ところが、栄えある追憶に包まれたエドワード一世の治世には、支えとして繊細な添え木ほどもてはやされたものはほかにはありませんでした。でも、こむらがインチないエドワード一世は、最も勇敢で思慮深い先祖たちと同じように、平時にも戦時にも見事に責務をまっとうし、先祖の「獅子心王」がイスラム教徒たちにそうであったように、「長脛王」³⁾の名で近隣の国々の人たちに恐れられたので

す。もっと歴史をさかのぼってみると、頭が少々左に傾いていたアレキサンダー大王がいます⁴⁾。彼が首の骨を直すまでは誰ひとりそのことで騒ぎ立てることはありませんでした。貴族たちは全員、王の前では頭を傾けて話し掛けるのです。というわけで、マケドニアの宮廷では、重要事項はすべて頭を斜めにして協議するありさまでした。そして、紀元一世紀頃には、ローマ鼻ほど世間の評判になったものはありませんでした。その後再度ローマ鼻のことが口の端に上るようになったのは1688年になってからのことでした⁵⁾。また、リチャード三世が国を二分してからしばらく、鼻の高さといかり肩が流行の先端となりました。さて、紳士諸君、私が五年間にわたって観察してきましたところ、我が国ではご婦人方を紳士の仲間内に入れていませんが、我が同盟国の中には御婦人方を仲間には入れてうまくやっているとところがあるのです。我がクラブの役員がオランダ絵画のモデルになったとしたらどんな感じになると思われますか。実を言えば、生身の人間では奇妙に見えるかも知れませんが、銅板画ではそれほど妙には見えないと、私は考えています。だが、この件は我が会員が決まるまで眠らせておきます。今夜は我がクラブへの入会者を決定しますので、どうか私に観察者殿を推薦させて下さい。彼の気質を考えて見ますと、彼をお迎えすることはできないかも知れませんが。」(こういった場合には常にそうなのですが) 大半の人はその気になっているのが私には分かりました。だが、鼻の高さと変わらないほど顎をしゃくれあがらせて黙って座っていた(会長が連れてくるのに大層苦勞した)古参会員の一人が、真顔でつぎのように言いました。「もし彼が貴方のことを十分に分かっていたら、進んで貴方の意向に沿うようなことはしなかったでしょう。彼としては、常に他人の長所と同時に彼自身の道義心を気にかけていたのです。彼は貴方が目鼻立ちの整った人物であることが分からなかったのです。貴方自身の証明書については、自分のことは自分で喋るのが各人の務めだ

-
- 3) サー・リチャード・ベーカー (1568-1645) によると、エドワード一世は長身で、普通の人は彼の肩ほどの背丈であったために、「長脛王」というあだ名がついたということである(『イングランド王年代記』1684年出版)。
 - 4) プルタルコス『アレキサンダー』4.1. マケドニアのアレキサンダー大王は首がねじれており、廷臣たちが大王の面前に出るときには、頭を傾けるのが礼儀作法となったと言われている。
 - 5) ウィリアム三世はローマ鼻の持ち主だったと言われる。国王に敬意を表して、ドライデンはウェルギリウスの翻訳の挿し絵では、アイネイアースを終始、ローマ鼻の持ち主と描いている。

ったのですから。」即座に、会長は「目鼻立ちが整っていますって。彼は才人なのです。貴方、格言をご存知でしょう」と切り返しました。そして、老紳士から疑念を取り除こうと、「長所ということでは、どうでもいいのです。仮面を着けることができるでしょう」と大きな声で言いました。会長はここで一息いれ、そのことを考慮するのに3日間の猶予が欲しそうに見えました。だが、会長は考え直し、「才人はいつの時代でも好きな仮面を着用する資格が与えられていたのです。仮面は才人たちの骨折りに対して、一般にサテュロス、ときにはアポロ自らの手で彼らに与えられる不変の栄誉だったのです」という古い物語を付け加えました。その真偽のほどを裏付けるために、会長は書物、特に『ユヴェナリス』の英語版の口絵を引合いに出しました⁶⁾。そして「こういった著者はいにしへのラルヴァ（仮面）を被った人物つまり仮面を贈られた人物だったのです」と一言付け加えました⁷⁾。これで決着が付き、結局、貴方は仮入会者として認められました。そこで会長は「彼は事実仮面のことを口にしましたが、その間、山猫と同様貴方がたには仮面のことを口にするチャンスはないと思ったのです」と言いながら、貴方のために乾杯しました。そういう訳ですので、今貴方に必要なことは入会金をお支払いいただくことなのです。これは押し付けられないものではありませんが、応分の額で結構です。そして貴方は自分を「醜い仲間の一員」と称することが可能です。私は貴方とお近付きになれますことを切望しています。どうか私のお祝いの言葉をお受取り戴きたいと存じます。

敬具

A.C.

6) ドライデン (1631-1700) の『ユヴェナリスとペルシウス』第2版の口絵には、アポロがユヴェナリスに諷刺の仮面を贈っている姿が描かれている。第3版 (1702年)、第4版 (1711年) にも同じものが掲載されている。

7) 仮面を意味するラテン語の Larva は、「肉体から離脱させられた靈魂」の意味も持っていたように思われる。ダネットは Larvae を死後あちこちさまよっている悪人の亡霊、善人と戦い、悪人を苦しめる幻と解釈している。単数形の Larva は、複数形の Larvae や霊のように、子供たちを脅かす仮面と考えられる。アディソンは『イタリア論』(1705) の中で、ローマの役者たちの「ラルヴァつまりペルソナ」について論じている。

第33号 1711年4月7日（土曜日）

【スティール】

燃え上がっている子供をせきたてなさい。美の三女神も帯を解き、
敏捷なニンフたちも、あなたがいないと無愛想な若い人たちも、
さあ、メルクリウスも。(ホラティウス)¹⁾

私の友人に娘さんが二人いる人がいます。その娘さんたちをラティーシャ（優美）とダフネと呼ぶことにします。ラティーシャは当代きっての美貌の持ち主で、ダフネはその容姿にはこれといってとりたてて際立った点はありません。こういった見掛けのために、二人の人生の幸不幸がめぐってきているように思えます。ラティーシャは幼少期から耳にすることといえば容姿容貌についての誉め言葉だけです。このように、彼女はまさに神様からこの上なく美しい容貌を与えられています。器量を意識するあまり、彼女は周りの人たちに対して鼻持ちならないほど自惚れが強く高慢な態度を取ります。やさしい言葉ひとつかけられることなく20歳近くまできたダフネは、姉に備わっている魅力の欠如を補うために、何らかの社交上の心得の修得を余儀なくさせられました。かわいそうなダフネは自分に関わりのある争いでもめったに意見は求められませんでした。ダフネの話には分別はあるものの魅力的に思われる点は何ひとつありませんでした。そして、彼女はいつも口を開く前には、何と言ったらよいかじっくり考えざるを得ませんでした。一方、ラティーシャの言うことにはえこひいきで耳を傾け、彼女が口を開く前から、相手方の表情にはすべて受け入れるといった態度が漂いました。このためそれ相応の結果を生み出します。ダフネの話し相手は感じの良い人なのですが、ラティーシャの場合は面白味がありません。人に引き立てられることを確信しているラティーシャは、相手を楽しませようとする話し方を身につけてはいません。だが、自分の容姿に対する望みをなくしているダフネはもっぱら自分の取柄に頼るしかありません。ラティーシャは常に不機嫌で、もったいぶった陰鬱な態度です。ダフネは快活で、率直で、のんきな表情を浮かべています。ある若い紳士がこの冬、劇場でラティーシャを見掛け、彼女のとりことなりました。運命を感じた彼は、飛び込みで彼女の父親に自分の気持を伝えました。彼は彼女の家自由に出入りすることが許されました。そこで彼がラ

1) 『頌詩』1.30.5-8.

ティーシャから得た最高の好意は、気詰まりな振舞いと険しい顔付きとよそよそしい仕草でした。一方、ダフネは彼に対して妹として陽気に、親しく、また無邪気に接し、彼がしばしば「親愛なるダフネ、あなたはお姉さんと変わらないほど奇麗だね」と話し掛けるほどでした。ダフネはそういったことばを下心のない女性に特有のあどけなく愛敬のある陽気な調子で受け止めました。彼は、それでもやはりいたずらに、ラティーシャのことを慕っていました。そして、彼はダフネとの愉快的な会話に心の安らぎを求めています。ついに、ラティーシャの傲慢な振舞いにうんざりし、ダフネの持つ変わらない陽気さに魅了された彼は、ある日、ダフネに言いたいことがある、気に入ってくれると有り難いのだが、と言った。そして彼は、「誓って言うが、私はあなたが好きだ。お姉さんのことは心から嫌だ」と続けました。彼の愛の告白を聞いて、彼女はお腹を抱えて笑いました。「そうですね、あなたに笑われるのは分かっていますが、私はお父さんをお願いします」と彼は言います。彼はその通りにしました。父親は彼のことばを驚きと同時に喜びで受け止め、美貌の娘以外のことは気にかけなくてよかったことを嬉しく思った。父親はラティーシャのことはいつでも売れると考えた訳です。久しく、我がダフネの愛情の獲得ほど私を大いに満足させたものはほかにはありません。ダフネを知っている者たちはみんな、彼女の「過失殺人」²⁾にお祝いのことばを述べ、謀殺者である彼女の姉のことを笑います。容姿の欠陥を不利に思うのは軽薄さの表れであるように、容姿の優位性を鼻にかけるのも同様のことなのです。女性の世界は、この点では、救い難いほど間違っているように思えます。そこで、自称麗人に宛てたある友人の手紙のつぎの抜粋をお勧めします。自称麗人は自称才人と同様に、耐え難い存在です。

「セント・エヴルモント氏は、彼の随筆の中で、容姿端麗な女性のいまわの際のため息は生命がなくなることに対してというよりはむしろ美を失うことに対するため息なのだ、と断言している。おそらくこのからかいのことばは少々極端でしょうが、これはとても明白な点に振り向けられているのです。つまり、女性の最も強い情念は美に向けられているということ、そしてまた、女性は美を最高の誉れと考えている、ということなのです。それゆえ、美しくなるあるいは美しさを保つとの触れ込みのあるありとあらゆる技巧は女性の間で広く受け入れられています。ロンドンというこの巨大な市場で日々販売されているいかさまや密売の化粧品は言うまでもなく、南イギリス一帯の良家の未婚の貴婦人で、「五月の露」³⁾の功德について耳

2) 偶然の行為で起る過失殺人。

にしたことがない人はいません。つまり、彼女たちは顔の色艶を気にして何らかの形でそれを手にしているのです。8年間大学で過ごしたあと、ヨーロッパのほとんどの国を旅行したことのある博識で分別のある医師が、まずはある化粧水⁴⁾で身代を作ったのを私は知っています。

このことから、私は女性に共通する性癖のことを考えてみる気になりました。この性癖は、殊勝な動機である人に気に入られたいという気持から生じ、つぎに、まんざら根拠のないことはありませんが、技巧によって造物主の手助けをし、それを自分たちの利点に転じることができるかも知れないという考えを持つにいたるのです。そこで、女性たちに美しくなる真の秘訣と技を明らかにすることによって、彼女たちを食わせ者や詐称者の手から救い、彼女たちの強迫観念を取り除いてあげることが結構なことだと思う次第なのです。

そのため、本題に直接入る前に、前置きとして金言を少し挙げておきましょう。

「ことばの助けを借りなくては才人になれないのと同様に、容貌だけでは女性は綺麗にはなれない。」

「高慢は均斉と優美さを台無しにし、美しい顔にとって、気取りは天然痘よりこわい敵である。」

「不実になれる女性は美しくはなれない。」

「友で不快な点は奥方の醜さである。」

以上述べた原則から、美を支える真の技巧は、人格そのものに、高潔で立派な素養というきちんとした装飾を施すことにあるのだということが容易に判明するでしょう。この助けを借りて初めて、造物主お気に入りの作品である人間、つまり、ドライデン氏の言う、「人間という陶土」⁵⁾は生気を帯び、魅力を発揮することができるのです。そこで、あわてて作られたひな形のように、造物主に軽んじられたと思われる人々は、大いに、造物主がしのこした点の仕上げをすることができるのです。

女性をただ単に見世物とみなすのは、この上なく好ましい参加によって喜びに磨

3) 五月に採取した露には薬効があり、化粧によいとされた。

4) つぎのような広告が見られる。「本製品水晶化粧水は高名なポール・チェンバレン博士に認められました。この化粧水で朝晩洗顔すると、原因が何であれ、すべての赤ら顔が解消します。吹き出物、にきび、しみそばかすが消えます。……水銀は含まれていませんので牛乳同様安全に使用できます。大ビン6シリング、小ビン3シリング。……」

5) ドライデン『ドン・セヴァスティアン』1.1.

きをかけ、人類の苦悩を和らげるために創られた女性に対する卑しく低劣な考えだ、と私には思われます。これでは女性から生来の力を奪ってしまい、ネラー⁶⁾の描く絵の水準にまで高めることはできません。どれほど多くの高潔な人々の美が美德によって高められ、私たちの尊敬と愛を集め、私たちの注目を浴びていることか。真に魅力的なソフロニアの無垢と敬虔と善良な気質と誠実と比べると、男たらしの魅力がいかに弱々しく生気のないことか。美德こそが女性に優しさを添え、美しさに一層の磨きをかけるのです。美德を身につけることで、慎み深い乙女にしか存在しなかったと思われる好ましさが、優しい母親や分別のある友や貞節な妻にも保たれているのです。キャンバス上に巧みに塗られる絵の具は目の保養になるかも知れませんが、心を動かしはしません。持って生まれた優美さに何か優れた資質を添えようとしないう女性はそれでも、絵としては眺められるかも知れませんが、美人としては名を挙げられません。

ミルトンがアダムを登場させ、楽園のイヴのこと、そして初めて彼女を見たときの印象を語るとき、彼はギリシャのヴィーナスのように容貌そのものからではなく、内部から光り輝き、容貌に魅力を授けている心の輝きの観点から彼女のことを描写します。

優美さが彼女の一步一步に、彼女の眼には天国の輝きが、
そして、彼女の一举一動には、威厳と愛情が、
満ち溢れていました⁷⁾。

この光り輝く力が備わってなければ、鏡にどのように映ろうとも、最も輝かしいこの麗しき人は自らの申し分のない容姿は生気がなく死んでいることに気づくはずで

す。この教訓を終えるにあたり、私はベン・ジョンソンの書いた短い墓碑銘を引用しておきます。ここには私が述べてきましたことが示唆されています。

限りなき美德が、この石の下に眠る。
生あるときには、この美德は、限りなき美に、

6) サー・ゴドフリー・ネラー (1646?-1723) は、ドイツ人で1675年にイギリスにやって来ており、当時、ロンドンで最も成功した画家であった。リンカーンズ・イン・フィールドのグレート・クウィーン・ストリートに立派な家を構え、そこにスタジオを置き、ここで上流社会の人々の肖像画を描いた。1711年秋、彼はロンドン初の芸術アカデミーの会長になった。

7) 『失楽園』(1667) 第8巻 488-9行目。

付与されていた⁸⁾。

敬具
R.B.

第34号 1771年4月9日(月曜日)

【アディソン】

野生の動物は体に自分と同じ斑点のある動物に
思いやりの気持を抱く。(ユヴェナリス)¹⁾

私が所属していますクラブは、非常に幸運なことに、さまざまな生き方をしている人たちが構成されており、まるで、それぞれ著名な階級の人たちの代表者がいるかのごとくです。このために、私はありとあらゆる種類の心得や材料が入手でき、ロンドンだけでなく王国全体のさまざまな地方や地区でどんなことが起っているかすべて分かります。我が読者諸君も、このクラブにはあらゆる階級の代表者がいること、そしてまた、何事につけ文字にしたり発行することがそれぞれの権利や特権に対する偏見や侵犯とならないように、それぞれの利害に気を配る人があることを知って満足します。

昨夜遅くまで、私はこの選り抜きの友人たちと一緒にいました。彼らは私のこういった思索についての意見を述べたり、読者の色々な階級や身分で経験した成功談をして私を楽しませてくれました。ウィル・ハニコームは、ご婦人方の中には私がオペラや人形芝居で上げたことがある勝手気ままな振舞いのことで気を悪くしている人がいると(あなたのために言っておきますが、このご婦人方は分別のある人ではありませんが、とウィルは言います)、ごく穏やかな調子で私に語りました。同じくご婦人方の中には私がからかいの相応しい対象として、社会的に地位の高い人々の衣服や装身具といったことを真面目に取り上げていることに驚いている人もいる、と語りました。

彼がさらに続けようとしていたとき、サー・アンドリュー・フリーポートが彼のことばをさえぎり、あなたがあてこすっている新聞はシティーでは大いに役に立っており、細君や娘さんたちのためにはよいのだ、と彼に語った。さらに、シティー

8) 「エリザベス墓碑銘」からの引用。

1) 『諷刺詩』15.159-60.

の住民は全員、私が身を落として特定の陰謀や不義の発表者にならずに、数多く発生する悪徳や愚行を懲らしめようとする偏見のない意向を表していることに対して、大いに感謝すべきだと付け加えました。要するに、参事会員や市民の身に降りかかるあの取るに足らぬ踏み固められた道を選び、法廷の虚栄や贅沢にペンを向ければ、新聞は必ずや大いに有益に違いない、とサー・アンドリューは言うのです。

これを聞いて、私の友人のテンプル法曹は、あなたのような分別のあるお方がそんな風にお話するのを聞いてびっくりします、とサー・アンドリューに言いました。シティーは常にサテュロスの地区となってきたのです。チャールズ王時代の才人は、その治世の間はほかの何事についても冷やかすことはありませんでした。彼はその後で、ホラティウスとユウェナリスとボワロー²⁾、そしてあらゆる時代の最高の書き手の例を挙げて、演劇や法廷の愚行は、これまでそれをひいきにしている人がたとえどんなに地位の高い人であろうと、常に嘲笑の対象となってきたのだということを明らかにしました。結局、法学院の人を攻撃するとき、私のからかいが大きく脱線しており、その点に関してはそんな先例はないと思う、と彼は言うのです。

その間一言も発しなかった私の善良な友人サー・ロジャー・ド・カヴァリーが「ヘン」と咳払いをして話を始め、分別のある方々がそんなたわいもないことでそれほど真剣になるのが自分には分からないと語りました。攻撃を受けるに値する人は誰でも攻撃させてあげたらいいのです、と彼は言います。私の方を向いて、観察者殿、地方の名士にちょっかいを出すには注意するようにと助言するのです。彼らはイングランド国民の飾りなのです。彼らは立派な知力と健全な肉体の持ち主というわけです。彼に言わせると、私が狐狩りをする人々のことを軽くあしらったことで私のことを悪く言っている人がいるということです。

セントリ大尉はここではとても控え目に意見を述べました。彼の意見は一言、陸軍のことには触れないよう配慮して欲しい、その件では引き続き慎重に振舞うようにとの忠告をするだけでした。

このころには、私の思索の対象はすべてクラブの人たちによって取り上げられているのが分かり、私は白髪を嫌う妻と黒髪を嫌う妻を持ち、その嫌悪の情のためにそれぞれが引き抜かれ、頭が禿げ上がってしまった男のありさまで自分の状態につ

2) ニコラス・ボワロー (1636-1711)。フランスの批評家。代表作として1674年出版の『詩学』がある。彼の訃報は1711年3月17日のデイリー・クラーント紙に載った。

いて考えはじめていました³⁾。

私がこのような思いに耽っていますと、私にとってとても幸運なことに、その夜クラブに顔を出していた尊敬すべき友人である聖職者が私の味方になってくれました。いかなる階級の人でも自分のことを著名な人物と考え忠告を受ける必要はないと思うのはおかしいのではないかと彼は私たちに語りました。人々から譴責を免れさせるのは社会的地位ではなく潔白さなのであり、悪徳と愚行は遭遇したときにはどこでも、とりわけそれが身分が高く著名な人々に見られるときには、攻撃を受けて当然なのです、と彼は語りました。さらに、彼は、私の新聞が主としてすでに貧困にあえぎ、彼らの境遇の貧弱さのせいで、ある程度、からかいの対象になっている人々を人目にさらすことになれば、貧困の苦痛を増大させるだけだろう、と付け加えました。その後彼は続けて、法の懲罰を受けるにはあまりにもつまらなく、説教壇の管轄からするとあまりにも異様な悪徳を非難することで、当新聞が国民のために大いに資するように心を配って欲しいと言った。そして彼は私に元気に企画を遂行するようにと助言し、誰かの気にさわろうとも、賞賛を受けるに値する人々全員からは認められるのだと言って私を安心させてくれました。

クラブの人たち全員は、この紳士の話に特別の敬意を払い、彼の駆使する主張の説得力と理性の力もさることながら、彼の率直で腹藏のない物腰によって、彼の話に引き込まれます。ウィル・ハニコームは直ちに彼の言ったとおりであり、自分としては、彼と同じ率直さでもってシティーのことは固執しないと行った。テンプル法曹は口を挟もうとせず、サー・ロジャーも大尉も彼になりました。つまり、彼らは全員、私が引き続き、身体の中に宿る罪人と戦い、人を傷つけずに悪徳に攻撃をするなら、私の好きな一角に自由に戦争を仕掛けることを承知したのです。

人のために行われるこういった論争をしていて、私は昔のローマの三執政が破滅のために行った論争のことを思い出しました。三人とも最初は自分の味方を守るために懸命になり、このために彼らの追放ができなくなっているのが分かったのです。そしてとうとう、知人や縁者全員を犠牲にし、とても慎みのある執行の準備を整えたのでした⁴⁾。

このように私は美德と分別のために大胆に突き進み、たとえどんな位階つまり階級の人であれその人に宿る敵を悩ます決意をしたので、これから先、そのことで私

3) イソップ寓話「老人と二人の妻」。

4) オクタヴィウス、アントニウス、レピドゥスによるいわゆる第2次三頭政治。

に向けられる諫言には耳を貸さないことにします。もしパンチ氏がゆきすぎれば、私は腹藏なく彼を非難するでしょう。演劇が愚行と無礼の温床になれば、私はおくせず批判するでしょう。要するに、私は、シティー、法廷あるいは地方で謙虚さや礼節に衝撃を与えるようなことに遭遇したら、それを見せしめに懲らしめるよう最大限の努力をします。とはいえ、私は有り難くも本紙の読者になって下さる皆さんに、誰か特定の人物、あるいはその人の友人の誰か、ないし敵の誰かが照準になるのだと考えないようお願いしておかなくてはなりません。なぜなら、私は少なくとも大勢の人に当てはまらない不完全な人物を引合いに出したり、博愛の精神と人間に対する愛情を注がずに記事にするような新聞は一紙たりとも出さないと約束しますから。

第35号1711年4月10日（火曜日）

【アディソン】

タイミングを失した笑いほど間の抜けたものはない。（カトゥルス）¹⁾

あらゆる著述の中で、ユーモアの作品ほど、著者が他にまさろうと願い、同時に、失敗しやすいものはありません。世間にこの種の気晴らしを提供できるのは、怪物が満ちている想像力、つまり、突飛な着想が詰まっている頭なのではないのです。だが、ユーモア作家を気取っている数名の人の著作に目を通してみますと、どれほど見当はずれのバランスを欠いた思いつきや不自然な思考のゆがみに出くわすことでしょう。彼らは馬鹿げた考えを口にすれば、ユーモアを論じていると信じているのです。つまり、彼らは、馬鹿げた計略、無節操な考えを寄せ集めると、笑わずして読み返すことはできないと考えるのです。こういった気の毒な紳士諸氏は、ペドラム²⁾の仲間入りの資格がありそうな途方もない奇想によって、才人およびユーモア作家としての評判を得ようとしています。彼らはユーモアが常に理性のチェックを受けなくてはならないということ、そしてまた、ユーモアというものは、優れたユーモアであればそれだけ、この上なく無限の解放された状態をほしいままにするので、非常にこまやかな識見が欠かせないということが分かっていないのです。この種の

1) カトゥルス『カルミナ』39.16.

2) ムアフィールドズの南に1676年に完成、ベツレヘム王立病院として知られた精神病院。狂人150人が収容できた。もとは1247年創立の修道院。ペドラムはベツレヘムのなまった形。

著述には、ほかのあらゆる著述の場合同様、自然の感情が観察されます。そして、著者が分別のある人間であることが明らかになると同時に、その本人が気紛れにすっかり没頭していると思えるある種の思考の尋常さが伺えるものなのです。私としては、拙劣な著者の手になるひどく興奮した浮かれ騒ぎを読みますと、気晴らしができるほど羽目はずすことはできず、むしろ、その人物が書いていることに笑いを浮かべるといふより、その人物のことを哀れに思うのです。

私が論じています類の才能をふんだんに備えていた故シャドウエル氏は、彼の書いたある戯曲の中で、窓ガラスを割るのはユーモアではないと言われてとても驚く取るに足らぬ放蕩者のことを描いています³⁾。私たちの周辺に奇怪な怪物的な書名で出回っているそういった支離滅裂で一貫性を欠いた作品の多くは、ユーモア作品というより、頭に異常をきたした人の生み出したものなのだと私が断言するのを聞くと、何名かのイギリス人読者はきつと大いに驚くことでしょう。

実のところ、何がユーモアであるかというより、何がユーモアでないかを論じる方がはるかに易しいのです。そして、カウリーが否定命題によって機知の定義をしたのと同じように、ユーモアをそれ以外の方法で定義するのはとても難しいことなのです⁴⁾。ユーモアについての私自身の考えを述べるとしますと、私はプラトンのやり方にならって、一種の寓話の形で、ユーモアを人物と想定し、つぎの家系図によって、ユーモアの何たるかを述べることになるでしょう。「真実」がこの一家の創始者であり、「分別」の父親だったのです。「分別」は「機知」の父親であり、「機知」は傍系の「陽気」という婦人と結婚し、子供の「ユーモア」をもうけました。従って、この輝かしい一家の末子であり、気質の違った両親の血を引く「ユーモア」は気性は実にさまざまで一様ではありません。あるときには、重々しい顔つきで荘厳な衣服をまとうっており、またあるときには、軽快な振る舞いで空想的な衣服をまとうています。そのときそのときで、裁判官のように真面目に見えたり、道化師のようにひょうきんに見えたりするのです。でも、「ユーモア」は体に母親の血が沢山流れていますので、どんな気分のときでも、彼は必ず、一座の者を笑わせます。

ところで、いたるところに詐称者がいて、この若き紳士の名をかたり世間ではうまくその名で通用しているのです。そこで、善意の人々が偽者にだまされないよう

3) トマス・シャドウエル (1642?-1692)。ドライデンのあとを継いで、1688年から92年まで桂冠詩人となった。

4) エイブラハム・カウリー (1618-67)「機知について」。カウリーはいわゆる形而上学詩人最後の人。

に、私は読者のみなさんにつぎのことをお願いしたいと思います。つまり、みなさんがそういった詐称者に出くわした場合には、その人の血統を調べ、その人が「真実」の遠縁にあたるのか、「分別」の直系なのかを厳しく吟味して欲しいわけです。以上のことに該当しない場合は、その人は偽物と考えられるのです。同様に、読者のみなさんは笑いが不快で度を越えたものであるかどうかによって、その人が偽者であるかどうかの識別ができます。こういった笑いではめったに一座の者を笑いに引き込むことはないのです。なぜなら、真のユーモアは普通真剣に見えるものですが、その一方で全員を笑いに巻き込むものなのですから。つぎのことだけ付け加えておきたいと思います。もしその人に両親の血が混じっていなければ、つまり、もしその人が「陽気」の血が流れていなく「機知」だけの子供、あるいは逆に、「機知」の血が流れていなく「陽気」だけの子供とみなされる場合には、その人は要するに「私生児」であり、偽者と考えて差し支えないのです。

私が述べています詐称者は、もともと「馬鹿げた考え」の母親「虚偽」の血統を引いているのです。「馬鹿げた考え」は「逆上」という息子をもうけ、その息子が通例「笑い」という名で知られている「愚行」という娘のひとりと結婚し、私がここで述べてきましたこの奇怪な幼児を生んだのです。私はここで読者が一目でそれぞれの家系と間柄が分かるように、「偽のユーモア」と「真のユーモア」の家系図を記しておきます。

虚偽	真実
馬鹿げた考え	分別
逆上——笑い	機知——陽気
偽のユーモア	真のユーモア

海の砂の数より多い「偽のユーモア」の子供を何人か挙げてこの寓話を敷衍することができましょう。特に、我が国で「偽のユーモア」が生み落とした数多くの息子や娘を列挙することができましょう。だが、これはとても不愉快な仕事ですので、総論として、「偽のユーモア」と「真のユーモア」が異なるのは「サル」と「ヒト」が異なるのと同じことなのだとだけ言っておきます。

第1に、偽のユーモアはきわめて愚かな手管やおどけを好む傾向があります。

第2に、偽のユーモアは猿まねを非常に喜びますので、悪徳や愚行、贅沢や強欲、あるいはその逆に、美德や智恵、苦痛と貧困のどちらをあばくかは彼にとってどうでもよいことなのです。

第3に、偽のユーモアは実に不幸せな存在で、飼い主の手にかみつ、敵味方に

関係なくどちらをも嘲笑的にしようとしています。偽のユーモアにはわずかな才能しか備わっていませんので、可能などころでは陽気なのですが、当然そうあって欲しいときには駄目なのです。

第4に、偽のユーモアは完全に理性を欠いていますので、道徳や教育には関心がなく、滑稽のための滑稽に過ぎないのです。

第5に、偽のユーモアが行うあざけりは、まがい物の陳述しかできませんので、常に人身攻撃となり、悪徳の人物つまり著者に狙いを定め、悪徳そのものつまり著述に狙いを定めることはありません。

ここでは偽のユーモア作家の全体像を示すにとどめています。本日の紙面での私の主たる目的のひとつは、今日の著述に現われる悪質な気質をたたくことにありますので、今後は、意地が悪く不道徳で馬鹿げた文章で世間に寄生している狭量な才人をやり玉に挙げるのにためらうことはないでしょう。これは私が一般的なルールと規定しています個人ではなく大勢を攻撃するというルールの唯一の例外です。誠実な人はみんな自分たちが中傷者兼諷刺家と交戦状態にあり、ことあれば彼らを悩まそうと考えているはずですから、これは彼らに対する仕返しであり、彼らが他人に対しているのと同じ扱いを彼らにしているに過ぎないのです。